

山形県スポーツ少年団

大空に翔る

平成9年3月発行

No.13

発行

(財)山形県体育協会

山形県スポーツ少年団

山形市松波2-8-1

☎(0236)30-2852

印刷 (株)大風印刷



先輩の活躍

「私とスポーツ少年団」

尾花沢市おもたか柔道スポ少出身

琴の若 實哉

私が、おもたか柔道スポーツ少年団に所属したのは、小学三年生から中学卒業までの七年間にすぎなかったが、楽しい思い出がいっぱい有るように思います。

その頃の柔道の練習は市の体育館二階でしており、コンクリートの床に畳を敷いての稽古であったため、受け身や、投げの練習では足腰が一段と痛い思をしながら、夏の暑さや、冬の寒さに負けずに猛練習しました。

その頃から、私は体格がよく校内相撲で横綱になり、市小学校相撲大会に出場した時のことです。予選で勝ち進み、横綱同士の決勝戦で惜しくも負けてしまったのです。今、私は職業としての相撲になってもこの事が悔しくてしょうがないのです。

中学では、柔道部に入り、練習試合のために隣町まで遠征していたときのことです。この頃は部活動とスポーツ少年団が一緒になっていたところですから、スポーツ少年団の代表指導者の森谷さんから

帰りにいつも温かいおしるこや、おにぎりを買って頂いて御馳走になった思い出があります。

苦しい練習があるけれども、その後に、楽しいことも有るんだなと無意識に教えられたような気がします。部活動では先輩の言いつけを守り、仲間が気持ちを一つにして頑張ったあの頃の心の触れ合を思い出すたびに、今でも胸がジーンとなります。

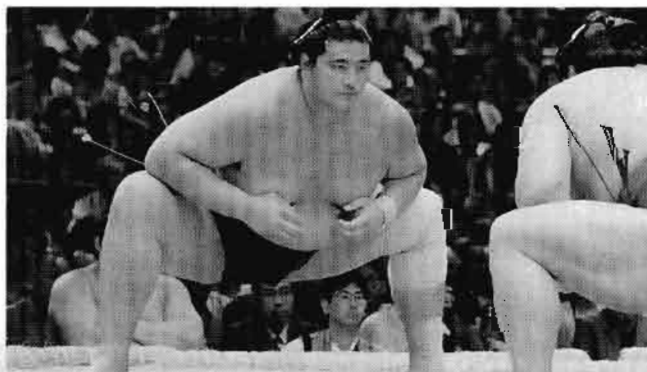
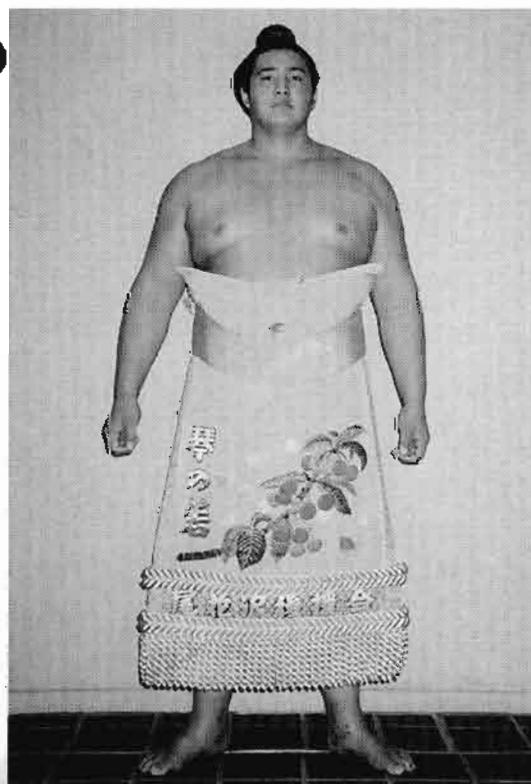
縁あって相撲界に入り、いちから相撲のことを学び、先輩からは厳しい躰を身に付けさせて頂き、汗と土にまみれての努力の積み重ねの連続でありました。幕下から幕内そして小結まで昇進でき、自ら「努力は報われる」ことを実感いたしました。

今スポーツ少年団に入っている小中学生の皆さん様々なスポーツ活動を通じ、仲間や先輩、指導者との心の触れ合いを大切にすることがスポーツを楽しくする鍵だと思います。苦しい思いも皆ですることので仲間を思いやる心や団結が

養われ、根性が芽生えそして、努力が報われるのです。

今私は、真千子という最愛の生涯の伴侶を得て、全身全霊を相撲に託せる体制が整った環境にあります。稽古を沢山積み、万全の相撲が出来る体調に仕上げてファンの期待に添える相撲を目指しますのでご声援をお願い致します。

最後に山形県内に余目町や米沢市に相撲スポーツ少年団が活発に活動していると聞いております。これから益々わんぱく相撲が発展する事を祈念して「私とスポーツ少年団」の話を終ります。



スポーツ少年団の

夢をもつて

日本代表(真室川スキースポ少出身)

青木 富美子

私は今、日本の代表選手として、世界選手権に出場しています。

先に依頼された「山形教育」にも載っていると思いますが、私とクロスカントリーとの出会いは、学校体育でのスキーとスポーツ少年団に加入したことがきっかけでした。

いつも自分なりに夢をもち、一步一步目標に近づきながら大学に進学し、アルペールビルヤリレハンメルのオリンピックにまで出場することができました。高校生の頃までオリンピックは私にとってただの夢にしか過ぎませんでした。その夢はいつも胸に抱いておりました。今は、オリンピックに出場することだけでなく、更に目標を高く置き、長野オリンピックでは、表彰台に立ちたいという夢を持っています。

また、山形県のスポーツ少年団の皆さんの中からも、将来のオリンピック選手が育つことを、心から願っています。



青木富美子選手のジュニア時代から

真室川スキースポ少指導者

佐々木 明

「青木さんは、小学生の頃からすごい選手だったんでしょね。」ワールドカップ白馬大会で五位入賞後、多くの人に質問された内容である。

彼女を指導していた高校三年生までの中で、特に心に残ることを記してみたい。

●クロカンの出会い

彼女がクロカンを始めたのは小学校五年生からであり、それまではスポ少にも加入せず、友達と自由奔放に遊び回っていた。

これこそが少年スポーツの基本であり、基礎体力が遊びの中から培われたものと思われる。それを裏付けるかのようにクロカンを始めるや、技術的な向上には目を見張るものがあった。

●複数スポーツの体験

中学校ではスキー部が無く、夏はソフトボール部に籍を置き、スポーツが万能な故に陸上大会にも出場した。そして、冬になると特設スキー部員として活躍していた。

このような複数スポーツの経験は、総合的な運動能力の向上に結びついたことは言うまでもない。

同時に、彼女が悩み苦しんでいる時に、励まし支えてくれる友達を沢山持つことにも繋がった。

全身持久力を必要とするクロカンの協賛特性を考えた場合、早期の専門トレーニングは、燃え尽き症候群

やスポーツ障害を引き起こすことがある。選手として大きく育てたいとの考えから、少年期の発育発達段階と競技特性を考え、決して急がず無理をしなかったことが、良い結果を生んだものと思う。

●専門トレーニングの開始

クロカンの専門トレーニングを始めたのは、高校生になってからである。小中学生の頃は冬期間だけのスキー練習であり、彼女の瞬発力を生かした合理的な走法を身に付けることに重点を置いて指導していた。

当然、全身持久力や筋力の不足は隠しきれず、中学三年間は全国大会入賞はおろか、県大会の優勝経験も無い。

技術的には全国レベルに到達していたことから、高校時代のトレーニング課題は明確であった。それを克服することにより競技力は急激に向上し、高校二年の鳴子インターハイと蔵王国体では共に準優勝であった。

●幸いした指導者不足

当時の中学・高校にはクロカンの専門指導者がいなく、小学生のスポ少活動と並行して指導していた。図らずも、小中高の一貫指導が実現したことになる。

八年間も一緒に活動すれば、顔を見ただけで彼女の考えていることが分かるし、彼女も私の心が見えていたものと思う。指導者として、選手の過去の歩みや性格・個性などが把握できていることは、大変な強みである。

また、選手育成の長期構想を持つことができ、小中高それぞれの時代

に完璧に仕上げたという、「三年完結型指導」を避けられたことは、彼女が大きく育っていった重要なポイントと考えている。

●すばらしい家族

彼女の祖父母は開拓者であり、現在父母が後を継ぎ、水稲と酪農を営んでいる。

現状に満足せず、自己完成欲が非常に強い彼女の性格を見ると、祖父母そして両親のフロンティアスピリットは、間違いなく彼女に受け継がれていると感じる。

両親は、スキーに関しては殆ど口を出さず、彼女に精神的な負担をかけることがなかった。

「富美子は私達の娘だが、青木選手は佐々木さんの子どもだ。」と言うのが両親の口癖である。スキーに関する全てを任せてくれたことは、本当に有り難いことであった。

思いつくままに書いてみたが、当時の懐かしさだけが胸を過り、まとまりのないものになってしまった。

平成十六年冬季国体誘致の話をするが、べにはな国体以降の本県スポーツの現状を踏まえ、長期的展望にたった選手育成のあり方を、再度考えてみたいものである。



団員の

夢

朝日野球スポーツ少年団(朝日町)



安藤 孝之

僕の夢は、甲子園に行くことです。お兄ちゃん達も野球をやっていたので、ほくも三年生になって朝日野球スポーツ少年団(サンフ

ラワーズ)に入りました。ほくのポジションはピッチャーです。ピッチャーは思っていたよりむずかしいです。ストライクを

入れようとするとかえってボールになつてしまうからです。去年の新人戦で初めて先発しました。ほくは、とてもうれしい反面、緊張してしまいました。

試合中、相手チームから「へっピッチャー」と言われた時は、とてもくやしかったです。そんなことは気にしないで投げました。四回ぐらい投げ続けると、すごく

疲れましたが、最後までがんばって投げ続けました。

て投げ続けました。

みんなで力を合わせてがんばったので、三位になることができ、とてもうれしかったです。その試合では、励ましてくれた友達、応援してくれた友達など、チームワークの大切さも分かりました。そして、ほくにとっても忘れられない試合になりました。

ほく達の練習は、日曜日の朝六時半から八時半までと、水曜日のナイター練習です。朝は、眠くない時もありますが、練習をがんばっています。

これらも、練習を休まず、監督やコーチの指導を受けて、僕の夢、甲子園に行つてその高校の校歌を大きな声で歌えるよう一生けん命がんばっていききたいです。

天童中部小スポーツ少年団(天童市)



遠藤 沙織

私は四年生の時からミニバスケットのスポ少に入り、その時から三年間がんばってきました。四年生の時は「六年生みたいに上手になりたいな。」と思いつながら練習や応援を必死にがんばり、五年生の時は、「新人戦」や地区の大会、県大会そして「東北大会」にも出場して、くやしかったり感動したりして、ふつうの人はできない事を経験してきました。

そして私達が主役になる六年生、私は「キャプテン」という任務を背負い、私なんかにとまるかどうか心配でした。六年生は、後輩のお手本にもならなければいけないので、プレッシャーも注意のさ

れ方も、四、五年生の時とは比べものにならないほどでした。泣きたくなったり、スポ少をやめたくなったりした時もあったけど、まわりには仲間が支えてくれたおかげで今まで続けてくることができました。今、五年生に活動が移つて、考えてみると、私達が今まで感じてきた感動などを後輩や今からバスケに入る人にも感じてほしいなあと

います。

私達がこれまで経験してきた事は、これから始まる中学校生活への『第一歩』にしたいと思っています。

尾花沢寺内スポーツ少年団(尾花沢市)



菅野 太一

ほくは、今、一つの目標を立ててがんばっています。それは、「市スキー大会フリーの部優勝」

です。四年生の時に寺内スキースポーツ少年団に入りました。ほくは、四年生の大会の時は、フリーで出場しました。ほくは、「どうせみんなたいしたことない」とみんなのことを甘く見ていました。結果は十九位でトップとの差もかなりありました。ほくは、そのことをパネに今でもがんばりました。五年になつてもまた十九位でした。もう「来年こそは」ともう二度も言いました。もし、優勝したら、おぎわら兄弟のような日本

トップクラスの選手になりたい。そう考えています。でも、ほくは、体力がありません。しかし、おいこされると、ほくのプライドがゆるしません。ぬかれたらぬき

かえします。いつもこの調子です。ほくは、陸上もとくいです。ほくは、今年六年生になります。だから六年生の大会だけは優勝したいです。

ほくは中学に行く時は、陸上部です。だからスキーとは関係がなくなりました。ほくは、最後の年に優勝して、カッコよく終わりたいんです。ほくは、カッコを気にするので今よりも、ずっとずっと練習して、ほくの夢をかなえてみたいです。

寺内スキースポーツ少年団は、みんなが友達なのでとても楽しいです。

東根サッカースポーツ少年団(白鷹町)



平吹 亮

ほくは、三年生の時に、この東根サッカースポ少に入り、三年間サッカーをがんばってきました。ほくの夢は、もつとサッカーがうまくなり、いろいろな大会でいい成績を残すことです。だけど去年あった試合には、いつもいっつもできませんでした。その時はほくは、やめたくなくなりました。だけ

ど、ぐっとこらえてがまんして、がんばってきました。

そして、五年生の秋に、ぼくが

出場できる新人戦がありました。

予選リーグは、なんとか勝って決勝リーグにすすむことができました。

決勝リーグでは、まず長井サッカー少に勝てました。次に

ちほうサッカー少に負けてしまいました。その時は、なみ

だが出るほどくやしかったです。そしてそんなくやしさをもう

二度とおこらないように、練習をがんばりたいと思いました。ぼく

たちのチームに勝ったチームでも県大会でゆう勝したということは、

聞いたことがあります。だから、まだまだ強いチームが山形県内に

も、あるし、全国にいけばもっともつとすごいチームがたくさんあ

ると思います。ぼくらのチームは、今は弱いけれどこれから六年生ま

で一生けんめい練習をして少しでも強いチームになれたらいいと思

います。

ぼくは、あと一年したら、卒業するので、スポ少をやめなければ

なりません。ぼくは卒業してもサッカーはずっと続けたいと思いま

す。だから今の四年生や三年生にもがんばってほしいと思います。

長浜スポーツ少年団(舟形町)

叶内 俊



ぼくは、二年生の時にクロカン

スキー部に入りました。一年生の時に、お兄ちゃん達が楽しそうに

すべっていたのを見て、ぼくも早くやりたいと思っていました。長

沢スポ少は、三年生からの入部だったので、ぼくと同じクロカ

ンスキーに興味を持った友達がい

たので一緒に入りました。練習は、なまやさしいものではありません

でした。でも、その練習にたえてきたのでいい成績がとれました。

五年生の時、足がネットにから

ってしまいました。それをがまんして最後まで走ったのですが、その後病院に行ったら、病院の先生

が「入院しなさい。」

と言われました。その時ぼくは、「もうスキーできないのかなあ。」

と思いました。そう思ったら涙が出てきました。病院の先生は、「スキーやっ

ていいよ。」と言われたので、すごくうれしか

ったです。そして、六年になった今、クロカンスキーをがんばっています。練習をいっぱいして、一位をとりたいです。

ぼくは、もう一つのスポーツをやっています。それは、野球です。

野球は、個人でがんばるんじゃない、みんな力を合わせてやるスポ

ーツです。ぼくは、四年生からやって六年生までやりました。それ

まで、きびしい練習にたえて、やつのことで大会に出してもらえ

ました。ぼくは、野球を中学校に行ってもやりたいです。

将来ぼくは、アメリカに行つて

メジャーリーグの選手になりたい

と思っています。そのためには、練習をいっぱいして、すごい選手

になってスカウトが来るぐらいになりたいです。

米沢体操クラブスポーツ少年団(米沢市)

鈴木 靖典



ぼくは、体操が好きで、小学校

四年生の時から体操をしています。学校の中間休みに、ときどき鉄

棒の練習をしています。そういう練習をしているので県大会の時は、

五位に入賞しました。ぼくの夢は、まず県大会で優勝することです。

県大会で優勝することは、ぼくに

とって、とてもたいへんなことだ

と思います。でも、必ず優勝してみたいです。強い選手は、他にも

いっぱいいます。その選手たちと勝負して優勝してみたいです。

次の夢は、森末慎二さんや池谷

幸雄さんのように世界の大会にで

て、金メダルを取りたいと思つて

います。世界の選手たちの実力は、

さうとう高なので、金メダルを取るにはかなり練習をしないと難し

いと思います。

ぼくは、この大きな夢を決して

あきらめないで、練習に耐えて金メダルを取りたいと思います。

庄内西郷スポーツ少年団(鶴岡市)

三村 佳澄



私は、バスケットボールが大好きです。三年生で入部

したころは、バスケットをやってみたいという気持ちだけで、入部したような気がします。

でも今では、バスケットがやれる事だけでなく、絶対に、はたさな

くてはならない目標をもって、毎日の練習をがんばっています。それは、全国大会出場です。

私達のチームは、団員数も少な

くバスケットにとって、一番不利

な背のひくいメンバーでやっています。でも私達は負けません。個人的な技術を、完全に身につけ、

これをチームプレーで何十倍にも

いかして、戦い続け最終的には、

全国大会での勝利が、チームみんなの一番の夢です。そのためにも

私達はきびしい練習の中にも、おたがいにはげまし合い、つらい時

は「がんばろう」と声をかけ合い、

団員が少ないけど、かんとくさんをかこんで、みんなが一つになつ

て今日も体育館であせを流して、

がんばっています。

今、私は西郷スポーツ少年団の中

中で、バスケットをできる事をうれしく思います。それはかんとくと出あったことです。練習中は、

本当にきびしく注意されます。体育館のガラスなどが、われるほど大きな声で注意されます。でも私は、負けません。くやくして涙が出る時もあるけど、がんばつてかんとくさんについて行きます。それは、バスケットが、大好きだからと、バスケットが、できるかんとくさんがいるからです。

団 紹 介

地見興屋スポーツ少年団

育成会会長 今井 一博



地見興屋スポーツ少年団は松山町南部地区の子供達を対象にし、昭和五十二年四月に登録しました。

これまで地見

興屋小学校（八〇人規模）の四年生以上の児童が自由参加にもかかわらず、全員が参加しています。

団員は現在、四六人で女子の主活動がミニバスケットボール、男子の主活動が野球、冬季はミニバスケットボールを行い、またスキー活動は全員が行っていて、昭和五十五年からは五・六年生の団員と父兄、指導者や地区で活躍している青年達も加わり、一緒に蔵王スキーツアーへと出かけております。異世代交流にも一役かき、地域の楽しい行事にもなっています。

スポーツでの特に顕著な活躍は少ないものの、中学生以降も色々なスポーツに親しめる基礎体力づくりを主にスポーツの楽しさを体得することを主眼に活動しています。

またスポーツ活動にこだわることなく、地域におけるボランティア活動、友好町交流活動、あるいは自然生産活動にと幅広い活動を行い、団員の健全育成に努めているところとです。

この団を支える指導者からは旺盛な奉仕精神で、ご協力をいただき、現在では教え子も一緒に指導に当たっているほど指導者の活動は活発なものになっていきます。

この様な活動が認められたのか光栄な事に、平成八年三月五日に県スポーツ少年団より、当団が優良団として表彰を受けました。

これも一重に学校・地域・指導者・育成会とが一体となって活動に取り組んできた賜物であり、この紙面をお借りしまして関係各位の方々に心より御礼申し上げますと共に、今後も一層のご支援をお願い申し上げます。

山辺町相模サッカースポーツ少年団

代表指導者 村岡 寛二



山辺町相模サッカースポーツ少年団は、昭和六十二年に結成し、去年十周年記念行事を行いました。過去相模サッカースポーツ少年団を卒業した団員全員に案内し、昔の団活動のなつかしい話等で、十周年を祝いました。

現在、団員数は三年生から六年

生まで四十四名、指導者は六名で練習に励んでいます。

活動内容は、毎週水曜日、日曜日（試合中心）に練習しており、年一回、町のサッカースポーツ少年団三団体が合同で合宿を行い、他の団との親睦をはかったり、羊煮会、スキーなどの行事も行っています。

活動方針は、サッカーを通しての仲間づくり、心身の鍛錬を目的とし、指導者は将来の団員の人間形成に少しでも役にできればと努力しています。

去年は、県少年少女スポーツ交流大会（サッカー競技）でブロンズ

ク優勝に輝くなど、日頃の練習の成果が着実に実を結んできております。これも、しつかりとした育成母集団の支援、協力の賜物と思っております。

今後更に、活発な少年団を目指すとともに、将来地域のリーダー、指導者として活躍して、より良い団員が成長してくればと考えております。

相模サッカースポーツ少年団は、団員一丸となつてがんばって行きます。

朝日野球スポーツ少年団

代表指導者 清野 文一



朝日野球スポーツ少年団は、町内の小学生を対象に、昭和六十二年に結成され、本年度十周年を迎えました。

現在団員は、町内四つの小学校から集まった二十八名、指導員三名で週二回の練習（毎週日曜と、水か土曜日）を行なっています。

活動の目標は、「あいさつ」「元気」「思いやり」の三つの約束をかかげ、野球を通して体力や技術を身につけながら、たくさんの方

達をつくることです。

おもな内容は、各種大会の参加、合宿、鏡開き、ドッチボール大会参加、自然の家の宿泊研修、納会と、野球だけにとられない幅広い活動を目指しています。また、西村山地区だけでなく、白鷹町との交流大会も毎年行なっています。

現在、町内四つの小学校から団員が集まって来ているため、全員そろつての練習時間が少ないので、父母の会の協力で月二、三回のナイター練習を取り入れました。

子供達にはとても好評で、水曜日のナイター練習をととても楽しみにしている様です。

これからは、卒団して行った子供達が地元に戻つて、指導者として活躍してもらえそうな少年団を目指し活動して行きたいと思ひます。

東郷サッカースポーツ少年団

代表 奥山 政四郎



東郷サッカースポーツ少年団は、東根市立東郷小学校を対象に昭和六十二年に複合スポーツ少年団として結成されました。翌年各競技ごと

に独立再編し、さらに東根市立高崎小学校の児童を迎えて、単位スポーツ少年団として今日に至っております。

練習は毎週日曜日です。週一回と少なく、また大会が日曜日に行われるのでその分練習時間がまた減ります。そこで大会には練習の一環として臨み、一試合一試合を大切に、相手チームの良いプレイに学び、真似をして少しずつ自分たちの糧にしていこうと何時も団員たちと話し合っております。

しかし、なかなか成績の向上に結び付きません。それでも、子供たちは悲観する事なく、いろんなチームと対戦できることに感謝し、勝負に一喜一憂しながらも、和気あいあいと楽しんでプレイしております。

スポーツ活動を中心に、合宿、芋煮会、親子サッカー大会（春秋の2回）などの年間行事を行っています。

結成一、二年目の子供たちも既に社会人となり、一人二人と指導者としてスポーツ少年団に関わりを持つてくれるようになりました。現在の団員たちも将来スポ少に、そして地域活動に関心を持ち、指導者として帰ってきてくれることを期待しています。

今後、サッカーの技術の向上はもちろんのこと、楽しみながらお互いに協力し合い、助け合って豊かな子供時代をおくれるよう、団員、指導者、母集団が一丸となって努力して行きたいと思っております。



ブルーインパルス
サッカースポーツ少年団

代表 斎藤 光雄

最上町立向町小学校の児童を対象としたサッカースポーツ少年団です。団員は三十五名で、練習は週三回、火・木・土です。時間は、早朝五時四十五分から七時四十五分までの二時間です。

早朝なので低学年の子供たちは最初起きるのがつらく、寝ぼけ眼でくるものもあります。

最上町では毎年ブラジルのサンパウロFCジュニアチームと国際交流サッカー大会を開催しています。町にはサッカースポーツ少年団が四団体ありますが、一年づつ各スポーツ少年団の家庭でサンパウロFCジュニア選手をホームス

テイしてしています。今年度は、当少年団が当番で十月十一日、十三日までの二泊三日でホームステイを行ないました。最初、受け入れを行なう家庭では、言葉や食事の違いがあり不安でいっぱいでしたが、やはり子供たちは言葉が通じなくともすぐに気合が通じました。最後の送別会では、みんな肩を組み合い歌をうたつて別れを惜しみました。

平成九年度は、交流五周年ということになり、交流五周年ということになり、交流五周年ということになり、交流五周年ということになります。

また、陸上を続けたいという団員のために、地元中学、高校の先生と協力しながら、一貫した指導体制づくりを進めています。

このように活動のなかで、平成八年度は、秋の交流大会女子一〇〇mにおいて、六年の酒井珠美さんが優勝することができました。

終わりに、指導者も日々研鑽し、団員と共に育ち、団の歴史を築いていく。それが今の当団の活動基盤となっております。

この背景には、少年期、特に小学生の段階で偏った運動は、身体

の発育に必ずしも良いとは言えないからです。また、文武両道でなくなっている昨今ですが、少しでも「武」に楽しさがあるというところを体で感じて欲しいという気持ちがあります。

このことから、現在、団員は二十一名ですが、とても足の早い人もいれば、もう少しという人もいます。けれども数ある陸上種目の中で投げることでも跳ぶことでも自分が楽しいと感じることできる種目に多くの時間をかけたいと思いい、一人でも多くの指導者が団員の指導にあたるよう体制づくりをしています。

また、陸上を続けたいという団員のために、地元中学、高校の先生と協力しながら、一貫した指導体制づくりを進めています。

このように活動のなかで、平成八年度は、秋の交流大会女子一〇〇mにおいて、六年の酒井珠美さんが優勝することができました。

終わりに、指導者も日々研鑽し、団員と共に育ち、団の歴史を築いていく。それが今の当団の活動基盤となっております。

この背景には、少年期、特に小学生の段階で偏った運動は、身体



スポーツ少年団は、レツゴイ沖郷を合言葉に、男女五十四名の団員が力を合せ、目標を持って、週

三回の練習に励んでおります。その中で子供達が将来にわたって「自分にもやればできる」という自信を持たせる事ができればという願いを持ちながら指導にあたっております。目標を大きく持ち、それに向かって進む中で、子供達の物事に対する意識を変えていければと思っております。子供が成長して行く過程では厳しさは必ず必要で、家庭での後押しも不可欠になります。どうしても家庭の中では甘やかしてしまいがちですが、体力一つを考えても、今のレベル以上のことに挑戦させていく中で、子供達を成長させることができると思っております。地域の指導者が保護者や地域の人々と力を合せ、子供の成長を願うのがスポーツ少年団であると考えています。この理念に基づいて、子供達がさらに意欲的であるような指導をしていきたいと思っております。

沖郷ミニバスケソフトボール

スポーツ少年団

指導者 和田 廣

私達沖郷ミニバスケソフトボール



「スポーツ少年団指導のあり方」を考える

山形県スポーツ少年団
副本部長

淀 吉 二

はじめに

スポーツ少年団に入団してくる子どもたちは、それぞれめあてをもち、希望にみちて入ってきます。本人の積極的な入団希望者が大半と思われませんが、友達の誘い、親からのすすめ等入団の動機はさまざまで、上手になりたい、丈夫なからだをつくりたい、みんなと一緒にスポーツをやりたい、友達をふやしたい等それぞれめあてをもって入団してきます。また、親にとつては素直で健康な子どもになってほしい願いをもって入団させています。これら子どものねがいや希望、それに親の期待にそうように指導していかなければならぬと思えます。このために留意すべきことを考えてみたい。

□ スポーツの

楽しさを □

みんな同じレベルまでと、強制的に高度な練習ということになると無理がかかり、たのしいスポーツでなくなります。子どもたちに達成のよろこびを与えるような内容・程度を工夫していかなければ

なりません。また、それぞれの子どもに適した助言と励ましが必要です。目標の通りにできずにいる子どもを叱りつけるより、常に「ほめる」ことが大切だと思います。それぞれの子どもが能力が違いますが、前より少しでもできるようになったことを見つけ、ほめてやるのがたのしさに結びつくものと思います。

□ 活動プログラムの工夫 □

団員である小学生の年齢に相応した指導法を工夫してほしいと思います。それに団員はそれぞれ能力・体力が違っており、これらにも十分配慮されなければなりません。大人や高校生・中学生と同じやり方では、子どもたちに無理がかかり、たのしさにも欠けてきます。また、試合に勝つための練習に重点がかかり過ぎ、子どもたちの発達段階を越えての能力や技能を要求し勝ちになります。このような競技志向の練習に走りすぎで、子どもたちの「たのしさ」を奪ってしまうことのないようにしたいものです。子どもたちの発達段階に応じた活動プログラムの工夫をして、たのしい活動ができるようにしてほしいものです。

□ 自主性、

自発性を育てる □

少年団の指導のねらいに、子どもたちの自主性、自発性の育成があげられています。子どもたちの技術向上をめざすあまり、指導者（コーチ）の過度の指示で、自主性を阻害して、自主性の芽をつみ自分で考えて行動することのできない子どもをつくってはいないでしょうか。また指導者の思うとおりにできない子どもを大きな声で叱ったりすることによって子どもたちは指導者の顔をうかがうようになり、主体的な行動に欠けてくるようになります。プレーにおいては、瞬時に自分の判断で行動することが必要となりますので、常日頃から自分の力で考え、目的もったプレーができるように指導していきたいものと思っております。また、少年団活動の内容として、主たるスポーツ活動のほかに、文化活動、奉仕活動、野外活動などがありますが、これら活動において、子どもたちの自主性・自発性を育てる場が多くありますので、スポーツ活動のみでなく、幅広い活動をとりあげて、子どもたちの成長を促すようにつとめたいものと思っております。

□ 終りに □

日本スポーツ少年団創設以来三十年にあたり、時間的経過と少年スポーツの過熱化とスポーツ離れの二極分化現象に対応するため、これまでの「少年団指導の理念」の再確認をはかり、平成六年六月、スポーツ少年団の理念の再確認と今後のあり方」の小冊子を日本スポーツ少年団で発刊しております。この際は非これを参考にして、各団活動の反省をし、少しでも理念に従った少年団活動となるよう願っております。



飯豊町

飯豊町スポーツ少年団は、現在、十六団（団員三百五十八名、指導員七十五名）が活動しています。今年度の町本部主催の活動としては、まず、春・秋二回開催している町スポーツ少年団交流大会があります。

母集団が作ってくれた「トン汁」を食べ、楽しく過ごしました。一方、指導者協議会は、昨年六月に指導者懇談会を行い、各団の状況報告と情報交換を行うとともに、学校週五日制に伴って、「スポーツ少年団の活動と中学校との連携」を中心に意見の交換がなされました。

春の交流大会は、新しく入団した団員を加え、町の結団式を行いました。合わせて、全指導員の指導のもと、体力測定を行っています。測定した結果は、各団に帰ってからの指導に役立てています。

また、一月には、地区のスポーツ少年団指導者研修会に多数の指導者が参加し、有名なスポーツ指導者の講演をお聞きし、指導のあり方を学びました。

秋の交流大会は、毎年、綱引きやドッチボール、グラウンドゴルフなどのレクリエーション種目を中心に実施しています。今年も、ドッチボールを通して団員一人一人の交流を深めました。お昼には、母集団が一九となって頑張っています。

三月にも町独自の研修会を開催し、来年度の活動を協議するとともに、スポーツ少年団の活動をふりかえる予定です。

町スポーツ少年団として、スポーツ少年団の本来あるべき「子ども達の健全育成」をめざした活動が展開できるよう、団員、指導者、母集団が一九となって頑張っています。

町スポーツ少年団として、スポーツ少年団の本来あるべき「子ども達の健全育成」をめざした活動が展開できるよう、団員、指導者、母集団が一九となって頑張っています。



地域交流促進事業

「地域交流促進事業」

米沢市スポーツ少年団 指導者協議会副会長 井坂 優子

山形県スポーツ少年団地域交流促進事業を米沢市で開催させていただきました。

主に米沢の子供達と置賜地区の少年団の子供達が一同に会しての「五分間走」と「巧み性」を身につける取り組みを行いました。

当日は、いろいろな大会、試合と重なって日程も思うようにとれませんでした。指導者、団員併せて約一五〇名が青空のもと（朝方は雨が降り寒かったが）元気に参加してくれました。

最近子供達の身長伸びのわりには、基礎体力がなく、スポーツ活動又社会生活をするにも一つの不安材料になっている様です。そんな中で今できる事の一つとして「五分間走」と縄跳び運動を通しての「巧み性」を高める運動を日体協一種スポーツトレーナー佐々木先生よりご指導いただきました。

始めに佐々木先生より指導者に対し「発育発達に応じた指導」についての講義をいただき、その後縄跳びを使つての「巧み性」を高める「動き」をご指導いただきました。

私自身、「縄跳びにも、あんなに楽しくありません。又、団員の子供達も楽しみながら意欲的に縄跳び運動に挑戦しておりました。その後、スポーツの基礎としての「走る」との大切さをお話しいただいたあと、体力テスト「五分間走」に挑戦。自己目標に向かってマイペースでしっかり走る真剣な姿勢には、見ている者として大変気持ちのよいものでした。

指導者の方々には、それぞれのポジションでお手伝いをいただきながら、日頃の団員の違った姿を見、新しい指導方法を学んだり、他団との親睦・交流を図られたり、有意義な研修を積まれたことと思います。

最後に、この事業がスポーツ少年団交流の一環として、今後とも長く続く事を希望します。また、私達指導者も、「スポーツの楽しさを自ら学び、社会に貢献できる逞しい子供達」の育成のため、今後とも資質向上に努めなければと思います。

各級スポーツ少年大会・スクール参加者・指導者資格受講者

- ◆日独同時交流事業（派遣）
 - 佐藤千里（朝日村）・佐藤祐里（朝日村）・樋口滋（白鷹町）
- ◆日独青少年指導者セミナー
 - 河井伸吾（御引町）
- ◆全国スポーツ少年大会
 - 芳賀繁男（指導者・白鷹町）・新野学・松岡裕美・横山純子・芳賀誠・原田伸（以上、白鷹町）・佐藤篤・渡辺達也・菅原良太郎（以上、鶴岡市）
- ◆東北ブロックスポーツ少年大会
 - 森谷雅志（指導者・中山町）・柴橋拓郎（寒河江市）・深沢静香（長井市）・奥山久・原田明・加藤学・佐竹美麻子（以上、白鷹町）・佐藤麻衣・長山麻美・伊藤理沙（以上、新庄市）・荒井鏡子・早坂彬・佐藤大輔・志田望智博・村田里枝子（以上、鶴岡市）・阪野真希子・斎藤豊和・船山聡志（以上、川西町）・青木勝志・星川潤一（以上、大石町）
- ◆指導資格取得者（新規）
 - 少年スポーツ上級指導員
 - 寒河江寿樹（川西町）
 - 認定育成員
 - 遠藤利馬（川西町）・三浦博仁（酒田市）・安達正一（寒河江市）
- 認定員 三五六名

日独同時交流に参加して

佐藤 千里

ダンケ シェーニング(ありがとう) 今でも、この言葉が私の心の中に強く残っています。この言葉を思い出したとき、あの日、あの時の出来事が、鮮明によみがえってきます。私は、日独同時交流に参加し、沢山の経験ができたことにとっても感謝しています。

一瞬の様に過ぎた約一ヶ月。ホームステイ、キャンプ、ゲーム大会等ドイツという日本とは一味違った空気の中で、仲間と共に楽しく過ごした日々。そして、自分自身を振り返ることができた期間でもありました。 一歩街に出てみれば、噴水の前でオルゴールを奏でているおじいさん、犬をつれてさんぼしている人、そして店の前では、ベンチに座わりビールを飲んでいる人がいます。そこに立っている自分までもを、楽しい気分にならせてくれます。私はこんなどこかな雰囲気大好きでした。



しかし、驚き、苦勞したことがありました。日本では、コンビニがあたりまえの今、ドイツではジュース一本を買うのにも苦勞したのです。

ほとんどの店が夕方には閉ってしまい、もちろん休日体は休みです。日本であたりまえと思っていることがあらためてすごいことだと思ひ知らされました。

一番心に残っているホームステイでは、とてもやさしくしていただきました。夜は、日本とドイツについて、それから、お互いの将来のこと、夢についても語り合いました。初めは、会話に不安もありましたが、実際は言葉が完璧でなくても、手振り素振りや伝わりやすさ。同じことを思い、考え、楽しい時を共に過ごすことができました。

この日独同時交流に参加し、多くの仲間と出会い、ものの見方、考え方も少し変わった気がします。日本を振り返り、自分自身を振り返り、様々なことを見えてきました。そして、自分に正直になれました。 またいつか、ドイツという素晴らしい国に、もう一度、訪れてみたいと思います。

日独同時交流に参加して

佐藤 祐里

私は、昨年の夏第二十三回日独スポーツ少年団同時交流に日本派遣団員として参加させていただきました。そこでは、数多くの事を学ぶことができました。二度の事前研修の後七月二十日から八月十二日までドイツのディーブルグ・ブランデンブルグ・ポツダム・ベルリンの州で、たくさんの方々のお話を聞いたり、実際に体験したりして二十四日間楽しく過ごさせていただきました。夏だということにドイツは、とても涼しくかえって肌寒いといった感じでした。ドイツという国は、ただ道を歩いているだけで歴史的な建物によく出会うことができました。私たち東北IIグループは、ブランデンブルグ州で八日間ホームステイをさせていただきました。そこでは、トレーニングジムに行ったり、キャンプ・カヌーなどを行いました。そして数カ所で行われた表敬訪問は、ドイツの今の現状を知るよい機会となりました。ホストファミリーの方々もとてもやさしく、本当の娘の様に接していただきました。その後ポツダム体育学校の寮で東北IIグループだけで生活しました。そこで体育学校の人々と話したり、私のホストファミリーの子もその寮にいたので遊びに行ったりしました。さよならパーティーは忘れる事のできない思い出です。ドイツでは掛け替えのない友達や、もう一つの家族ができました。今まで抽象的だった自分の考えが変わった様に思えます。ささいな事でも考えたり、感じたりすることができるようになりました。日独交流に推薦していただいた方々に本当に感謝しています。 本当にありがとうございました。

すばらしい体験

この夏、我家に突然訪れた「ドイツ交流、受入れ」の話。 子供達は、何の抵抗もなくすぐに、喜びの声を上げたけれども、私は、不安、心配だけが先に湧いてきて、とても首を縦に振ることは、できませんでした。 けれども、子供達の期待や夢に敗けて、遂に私も、受け入れることを承諾。 そして、八月四日、私達の目の前に現れたのは、お人形さんの様にかわいい女の子。 彼女の名前はエファ。 その日から数日間、エファと私達家族の交流が始まったのです。 エファとの会話は、身振り手振りや片言の英語、それなのに、いやな顔もせず、自分の方から私達に話かけたり、自分の方から私達に話かけたりする様子がとても伝わりました。

我が家の三人の娘達とも、自然とかけ合い、夜は一緒に、花火をしたり、パーベキューをしたり、折紙をしたりしてお互いに笑い合えるようになるのも、たいした時間はかかりませんでした。 そして、数日過ぎた頃には、「ドイツに行きたい。」と言った娘に、「自分のスーツケースは大きいから、これに入れて、連れて行ってあげる。」とほほえみながら彼女は言ったのです。 あつという間に、夢のような数日は過ぎ、ステキなドイツの友達は帰って行きました。 この交流を通して、相手を受け入れる心があれば、言葉の違い、習慣の違いの問題は解決できるものだと感じました。 最後に、この様な素晴らしい出会いをさせていただき、ありがとうございました。 今も、この地球上に、数日間を共に過ごした、外国の友がいると思うと、少し不思議で、幸せな気持ちになります。 本当に、素晴らしい夏をありがとうございました。



素晴らしい出会い(日独受入)

舟形町 八 嶽 みどり

すばらしい体験 東北IIグループだけで生活しました。そこで体育学校の人々と話したり、私のホストファミリーの子もその寮にいたので遊びに行ったりしました。さよならパーティーは忘れる事のできない思い出です。ドイツでは掛け替えのない友達や、もう一つの家族ができました。今まで抽象的だった自分の考えが変わった様に思えます。ささいな事でも考えたり、感じたりすることができるようになりました。日独交流に推薦していただいた方々に本当に感謝しています。 本当にありがとうございました。

すばらしい体験 東北IIグループだけで生活しました。そこで体育学校の人々と話したり、私のホストファミリーの子もその寮にいたので遊びに行ったりしました。さよならパーティーは忘れる事のできない思い出です。ドイツでは掛け替えのない友達や、もう一つの家族ができました。今まで抽象的だった自分の考えが変わった様に思えます。ささいな事でも考えたり、感じたりすることができるようになりました。日独交流に推薦していただいた方々に本当に感謝しています。 本当にありがとうございました。

すばらしい体験 東北IIグループだけで生活しました。そこで体育学校の人々と話したり、私のホストファミリーの子もその寮にいたので遊びに行ったりしました。さよならパーティーは忘れる事のできない思い出です。ドイツでは掛け替えのない友達や、もう一つの家族ができました。今まで抽象的だった自分の考えが変わった様に思えます。ささいな事でも考えたり、感じたりすることができるようになりました。日独交流に推薦していただいた方々に本当に感謝しています。 本当にありがとうございました。



すばらしい友達



この交流会でみんな協力することと生かし、生活していきたい。これは忘れられない三泊四日だった。お世話になった指導者のみなさん、そして友達……、本当にありがとうございます。

東北スポーツ少年大会で学んだこと

佐藤 麻衣

私は、この交流会に参加する前、県の交流会でいっぱい友達ができ、それからもつと友達をつくりたいと思いいこの交流会に参加しました。でも、東北なので少し不安があった。友達がきちんとできるだろうか。みんな協力して過ごせるか。そんな不安と期待もありながら、家を出た。汽車の中ではもう、友達ができともうれしかった。そして福島に無事到着。バスに乗りかえて、三十分くらいしてようやく着いた。一日目はさっそく班活動で野外炊飯だった。やっぱりさいしょだから、しゃべる数は少し、その日はカレーを作ったけどドロドロ。カレー汁だ。

みんな無理して「おいしーい」などと言った。きつとまずかったと思う。

その日は、一日目だったけどとても楽しかった。二日目、朝は起きるのがとても早くてつらい。でもよくねむれた。その日の夜は、キャンプファイヤーで室内でした。班ごとに芸を見せた。おもしろくて笑ったり、すごい!!と思ったりしました。楽しかったのは良かったけど、中でキャンプファイヤーをしたので、けむりくさくてのががいたかった。三日目。いよいよ終りに近づいていく。私に苦手な山登り。「雨でもふってくれえ。」と願っていたけどけつよく行くことになった。どんだんのはつていくにつれ、坂がきゅうになつていく。それとともに私の体もつかれて、水も少なくなりもうげんかという所で、天気が悪くなるからと言つて下りた。この日はもう、くたくただった。そして最終の四日目

友情の大切さを学んだ。これからこの学んだことを生かし、生活していきたい。これは忘れられない三泊四日だった。お世話になった指導者のみなさん、そして友達……、本当にありがとうございます。

全国大会に参加して川東スポーツ少年団

松岡 裕美

学校の夏休みが始まってすぐの七月二十六日～七月三十日の五日間、京都府で行われた全国スポーツ少年大会に参加させていただきました。「大会に参加してみないか。」と言われた日からとても楽しみにしていたはずなのにいざ班活動が始まると班員のとなかなか話せず帰りたいとばかり思っていました。けれどその思いを吹き飛ばしてくれたのは言葉の方言でした。

他県の人にはつい口から出てしまう「こんだ(そうだね)」「や、行くべ(行くこう)」という言葉でもわざわざ標準語に直さなければならず、自分の使っている言葉がこれほど通じないのかと言葉の壁の厚さにつかりました。でもやはり東北と言われる青森県の人や福島県の人とはいつもの口調で話せ、いつの間にか班の輪・友達の輪ができたのも言うまでもありません。

初日の自己紹介・班旗作りから始まり、二日目の秋篠宮西殿下を迎えるの閉会式・スポーツフェスティバル、三日目のウォークラリー・クラフト、四日目のファイヤー・ストーム(キャンプファイヤーと同じもの)、

そして最終日の閉会式と盛りだくさんの活動が行われましたが、特にその中で友情と協力の大切さを学んだファイヤー・ストームが今でも心に残っています。

その日は外でハイキング形式の夕食を食べました。大勢の人と外で食べるからか、どれでもいい。その中には午前中に係になった班員が作った手作りパンとソーセージがあり、店で売っているものとは比べものにならないくらいおいしくてたくさん食べました。雨が少し降り心配されたファイヤー・ストームでしたが空が暗くなる頃には星も見え始め、火は天高く燃えとてきれいでした。三百人近い人で火を囲んでいると火は友達の絆のように思え、このままずっと消えないでいてほしいとさえ思えてきました。

あつという間に四日が過ぎ班員の人とも指導者の先生とも仲良く、今までずっと前から友達だったかのようにつなげることができるようになった。思ったの明日になればお別れかと思つたその日の夜は今までの夜より一段とゲームをしたりダンスをしたり写真を撮ったり、とても楽しく過ごすことができました。しおりにT

すばらしい思い出

シャツに帽子に書けるところすべてに友達みんなにお別れの言葉や思い出やら、励ましの言葉など真っ黒になるくらい書いてもらいました。そして七月三十日の最終日。朝食が終わり、閉会式が終わり別れが近づくにつれてみんなの顔はさびしさでいっぱいになっていきました。私もきつと別れたくなくて悲しくて今にも泣き出しそうな顔をしていたにちがいないりません。目には知らず知らずのうちに涙があふれていきました。「また会おうね、手紙書くからね。」をいあい長いようで短かった全国大会が終りました。

このようなすばらしい友達すばらしい思い出、すばらしい体験ができたのも私を推薦してくださった指導者の先生方、団の指導者の先生方本当にありがとうございます。今後は今回の経験で得たこと自分にプラスになったことを十分に生かしより一層がんばって生きたいと思つています。友情の輪を日本の中だけじゃなく世界にも広げていけるようになりたいです。



県スポーツ少年大会に参加して

寺 奇 尚 慶

ぼくは、神室少年自然の家で行われた、県スポーツ少年大会に参加しました。二泊三日の間に、仲間づくりゲームやハイキング、野外炊飯、キャンプファイヤーなどをやりました。その中で一番思い出になったのが、頭と身体を使うハイキングです。

ぼくは、自分でいたい四キロメートルぐらいじゃないかと思っで出発しました。でこぼ道や、自分の背より高い草木をかきわけながら前へ進んでいきました。と中、道に迷った時は、どうしようかと思いましたが、他の班も迷っているのを見てはく達だけじゃないんだと安心しました。中間地点の近くにすぐ急な坂がありました。すべって落ちてきた人もいましたが、草をつかんだりしていつきに登っていきました。

昼食の時間になり、ぼく達は丸太にこしかけて食べることにしました。でも、くたびれて弁当を残してしまいました。こんな大変なことは一人だけではぜったいできない。仲間がいるから、こんなつらいこともできるんだと思いました。後半はほとんど下りだったので、ゆっくりペースでしたが、太陽が当たって、とても暑くて、汗がたくさん出てきて早くゴールにつかないかなとばかり思っ



ていました。やつとどう着した時、先生から、十キロメートルと聞いて、ぼくはどつとつかれができました。その時撮った記念写真が一番気に入っています。その日の夜のキャンプファイヤーでは、みんなの出し物で大笑いしました。

次の日、ぼくは、町内ソフト大会に出るために、朝早く帰らなければならなかったのですが、キャンプファイヤーが終わったあとの班会議の時に、お別れのあいさつをしました。本日は、最後まで、みんなと行動したかったです。でも、この大会に参加して、たくさん友達もできたし、つらいハイキングでも楽しくできたのでよい思い出になりました。

平成六年度
全国ホッケー
交流大会
参加チーム一覧
川西町で開催

第18回 全国スポーツ少年団
ホッケー交流大会

男子の部			女子の部		
チーム名	都道府県名	都道府県名	チーム名	都道府県名	都道府県名
1 恵庭市島松ホッケースポーツ少年団	北海道	1 三沢小学校ホッケースポーツ少年団	青森		
2 木崎野小学校ホッケークラブ	青森	2 久保ホッケー少年団	山形		
3 久保ホッケー少年団	岩手	3 中部まいつるホッケースポーツ少年団	山形		
4 中部まいつるホッケースポーツ少年団	山形	4 小松ホッケースポーツ少年団	山形		
5 小松ホッケースポーツ少年団	山形	5 屋代地区スポーツ少年団	山形		
6 屋代地区スポーツ少年団	山形	6 今三ホッケークラブ	栃木		
7 今市ホッケースポーツ少年団	栃木	7 小林ホッケースポーツ少年団	栃木		
8 今三ホッケークラブ	栃木	8 南原アムラ	栃木		
9 白根百田ホッケースポーツ少年団	山梨	9 白根飯野小ホッケースポーツ少年団	山梨		
10 白根飯野小ホッケースポーツ少年団	山梨	10 白根源ホッケースポーツ少年団	山梨		
11 津沢ホッケースポーツ少年団	富山	11 大谷ホッケースポーツ少年団	富山		
12 大谷ホッケースポーツ少年団	富山	12 津沢ホッケースポーツ少年団	富山		
13 石動ホッケースポーツ少年団	富山	13 石動ホッケースポーツ少年団	富山		
14 蟹谷ホッケースポーツ少年団	富山	14 蟹谷ホッケースポーツ少年団	富山		
15 東部ホッケースポーツ少年団	富山	15 東部ホッケースポーツ少年団	富山		
16 富来ホッケースポーツ少年団	富山	16 富来ホッケースポーツ少年団	富山		
17 富来イーグルススポーツ少年団	石川	17 朝日南ホッケースポーツ少年団	福井		
18 朝日西ホッケースポーツ少年団	福井	18 朝日東小学校ホッケースポーツ少年団	福井		
19 朝日南ホッケースポーツ少年団	福井	19 若葉スポーツ少年団・彦根Wind-Kid's	滋賀		
20 朝日東小学校ホッケースポーツ少年団	福井	20 伊吹ホッケースポーツ少年団	滋賀		
21 春照ホッケースポーツ少年団	滋賀	21 春照ホッケースポーツ少年団	滋賀		
22 若葉スポーツ少年団・彦根Wind-Kid's	滋賀	22 下美ホッケースポーツ少年団	京都		
23 伊吹ホッケースポーツ少年団	滋賀	23 下山ホッケースポーツ少年団	京都		
24 山東西ホッケースポーツ少年団	滋賀	24 高原スポーツ少年団	京都		
25 三ノ宮ホッケースポーツ少年団	京都	25 須知ホッケースポーツ少年団	京都		
26 下山ホッケースポーツ少年団	京都	26 竹野ホッケースポーツ少年団	京都		
27 竹野ホッケースポーツ少年団	京都	27 樋脇町女子ホッケースポーツ少年団	鹿兒		
28 樋脇町ホッケースポーツ少年団	鹿兒				



10月25日～28日の4日間、アジア諸国9ヶ国30人のスポーツ指導者が県スポーツ少年団の受入れで研修。

編集後記

スポーツは、本来楽しいものです。なぜならば、スポーツは遊びの中から生まれたものだからです。ゲームをやる中で、その結果として、勝敗がついてくるものです。

次代を担う子ども達、無限の可能性と創造力を持っている子ども達。どんな活動においても失敗は、常にあります。成功することももちろんあります。頭越しに怒ることよりも、ちよつとしたことを大いに誉めて上げる。そこが、必要ではないでしょうか。そのことが、子ども達一人ひとりの存在を認め、スポーツ好きな子どもをつくりだしていくことに繋がるのではないのでしょうか。

スポーツ少年団員がどんどん増えていくことを願っています。